東三河MaaS『いこまい』推進事業｜豊橋鉄道株式会社

2026/03/10

目的：複数市町村の連携による周遊・交流の促進

- 東三河地域の複数の公共交通と観光地等の情報をMaaSアプリ(「いこまい」)で連携させ、公共交通を利用した外出を促進する情報提供を行う。
- MaaSアプリの利用データと鉄道・バスのICカードの乗降実績データを分析し、東三河の市町村に報告し、公共交通利用や観光を促進する施策に繋げる。

事業内容：交通アプリ『いこまい』高度化とデータ活用推進

【交通サービスの高度化】

- 従来の路線バスに加え、バスロケーションシステムに鉄道とコミュニティバスの追加設定を実施。これにより、3つの交通機関の走行位置がリアルタイムで分かるようになった。加えて、MaaSアプリに運行情報を連携し、経路検索や観光等の情報とともに運行情報を提供することで、利用者のスムーズな移動など利便性を向上した。

【モビリティデータの取得と活用】

- MaaSアプリのデジタルチケットの販売や経路検索等の利用データと鉄道・バスの乗降実績データを可視化、分析し、東三河の市町村に報告。効果的な交通再編や自治体と連携した地域交通計画の策定、企画乗車券や沿線施設のクーポン等による観光を促進する施策に活用。

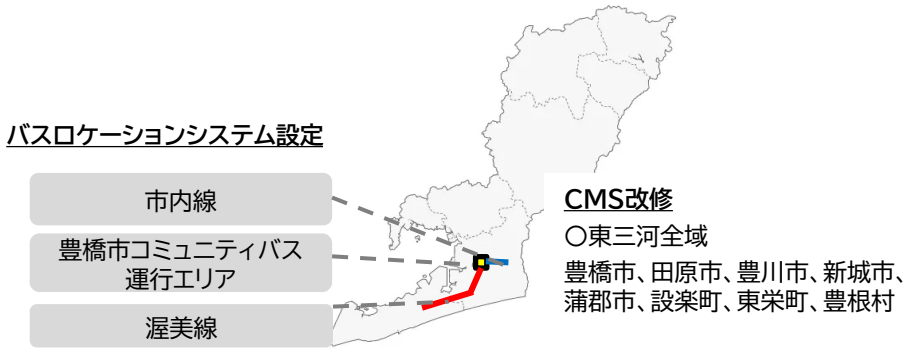
【エンドコンテンツとの連携】

- 東三河8市町村や観光協会が、イベント情報等を直接MaaSアプリに更新できるシステム(CMS)を構築することで、MaaSアプリ上の情報の鮮度等を確保しつつ集約した情報発信を実現した。

効果

- 課題：交通モードと観光地等の目的地の情報が連携しておらず、移動できるかが分からない。また、イベント等の地域情報が複数コンテンツに分散していることで情報を欲しい人に届かない状況。
- 効果：バスロケーションシステム設定と鉄道、バスの運行情報の統合、MaaSアプリへの運行情報の連携、CMS改修による最新情報の提供等により。公共交通の利用者や観光客のスムーズな移動の実現や公共交通の利用意欲の向上を実現した。

【実施エリア】



【本事業の取組の全体像】



【バスロケーションシステム画面】



【CMS管理画面】



Copyright © 2025 by MEIJI. All rights reserved.

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	目的地情報と交通情報の連携不足により、公共交通を利用する機会を喪失している	MaaSアプリによる交通と地域の観光地等の情報の集約とともに、CMSの改修で自治体等が直接情報を更新し、鮮度を確保した情報発信ができる環境を実現。結果、需要に合った情報提供が出来るようになり、公共交通の利用機会の創出と利用意欲の向上を実現した。
2	鉄道や路線バス、コミュニティバスのリアルタイムな走行位置が分からず、待ち時間が発生し、スムーズな移動ができない	バスロケーションシステム設定と鉄道、バスの運行情報の統合、MaaSアプリへのリアルタイム運行情報の連携により、公共交通の利用者や観光客のスムーズな移動を実現した。
3	MaaSアプリの利用データや鉄道・バスの乗降実績データを分析するためのツールや環境が整っておらず、利用実績に基づいた効果的な交通再編や地域公共交通計画の改定、観光促進の施策の検討できていない	MaaSアプリの利用データとICカードの乗降データを詳細に可視化し、交通計画に関するデータドリブンな検討が行える環境づくりに注力。実績に基づいた路線再編や自治体と協働した地域公共交通計画の改定、観光を促進する施策に活用できるデータ基盤を構築。

KPI

【凡例】 赤字:目標達成　青字:目標未達成

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	東三河MaaSアプリ『いこまい』アクティブユーザー数の増加	アクティブユーザー数	Google アナリティクス	月1回	23,000人	15,023人	広域でのサービス展開に対する周知・宣伝活動が十分に行き届かなかった。日常利用を促すための地域密着型のPRや、認知度向上に向けた継続的な発信が必要であった。
2	東三河MaaSアプリ『いこまい』アクティブユーザー数における外国籍のアクティブユーザー数の増加	アクティブユーザー数の割合	Google アナリティクス	月1回	3%	3%	東三河地域は潜在的に外国籍住民の割合が高い。MaaSアプリは。多言語に未対応だが、東三河の鉄道とバスの走行位置情報を統合させたサービス(「のってみりん+」)は、4カ国語対応であり、鉄道とバスの走行位置情報をMaaSと連携させたことで 、外国籍住民の利便性を確保できた。

MLIT Copyright © 2026 by MLIT. All rights reserved.